



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ひとつの医療機器が起こした、心臓弁膜症の治療革命 (C)

5

— 経カテーテル大動脈弁治療 (TAVI) —

エピソード 2018年12月、アメリカ、カリフォルニア州、エドワーズ本社

10

「治療を受けて元気になった患者さんの姿は、私たちを勇気づけてくれます。そして患者さん第一を貫き、コミットメントにフォーカスし続ける限り、私たちの未来は明るいものになると確信しています。エドワーズのために、そして何より世界中の患者さんのために、尽力してくれてありがとう。みなさんどうぞ良い休暇をお過ごしください。」

15

毎年恒例となっている、年末休暇前のボイスメールを全社員に配信し終わると、ムサレムは自分のオフィスのデスクで、ほっと息をついた。今や世界各国に拠点を持つまでに成長したエドワーズは、社員数も12,000人にまで増加した。しかし今なお、ムサレムは社員一人一人に自ら、語り掛けることを大切にしていた。どんなに会社が成長しても、自分が社員たちに伝えたいことはシンプルだ。すべては患者さんのためであり、患者さんを助けることが私たちの使命で、患者さんにとって正しいことを行う、そうすれば私たちは迷うことはない。彼は一貫して、社員たちにこのことを伝え続けてきており、それはエドワーズのカルチャーとしてしっかり根付いていた。

20

2000年にニューヨーク証券取引所に上場して以来、20年近い年月が瞬く間に経過した。様々な試練や困難、そして喜びがあった中でも、最も大きな出来事は、やはりPVT社の買収と、その後の経カテーテル人工弁の成功だった。

25

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科 後藤 励と米国医療機器・IVD工業会 (AMDD) 医療技術政策研究所リサーチフェロー 児玉順子・緒方令奈により作成された。ケース内の企業名等のうち一部仮名の場合がある。なお、このケースはクラス討議のための資料としてまとめられたものであり、経営管理に関する適切あるいは不適切な処理を示すことを意図したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法 (電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 後藤 励、児玉順子、緒方令奈 (2018年10月作成)